

空間デザインの検討結果

平成28年度 第2回石巻南浜津波復興祈念公園有識者委員会 資料

平成29年3月14日

○空間デザインの検討結果 目次

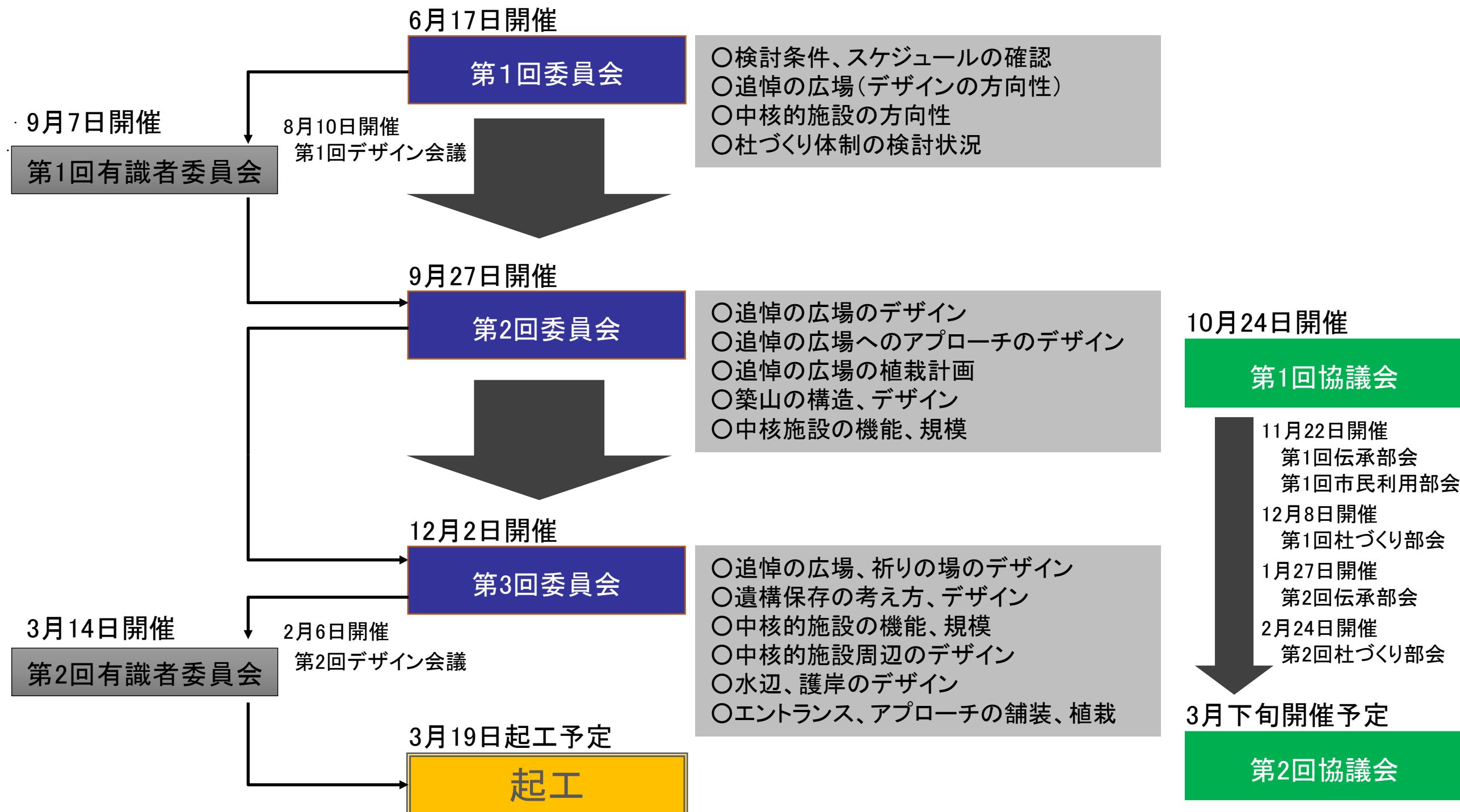
1. 空間デザインの検討経緯	1
2. 計画平面図	2
3. イメージパース	3
4. 施設仮名称の設定	4
5. 検討のポイント	5
6. 旧門脇小学校や日和山との関係性等の整理	6
7. 日和山からの眺望性の検証	7
8. 追悼の広場の空間デザイン	8
9. 祈りの場の空間デザイン	9
10. 慰霊碑の辻の空間デザイン	11
11. 公園内の震災遺構の活用	12
12. 公園の利活用を想定した中核的施設の機能整理	15
13. 水辺のデザイン	16
14. 計画地の自然環境の把握と植栽計画への反映	18
15. 植栽平面図	19
16. 静砂垣の割付パターン	20
17. 杜づくりの手順	21
18. 整備スケジュール	22

1. 空間デザインの検討経緯

有識者委員会【県】

空間デザイン検討委員会【国】

参加型維持管理
運営検討協議会【市】



2. 計画平面図



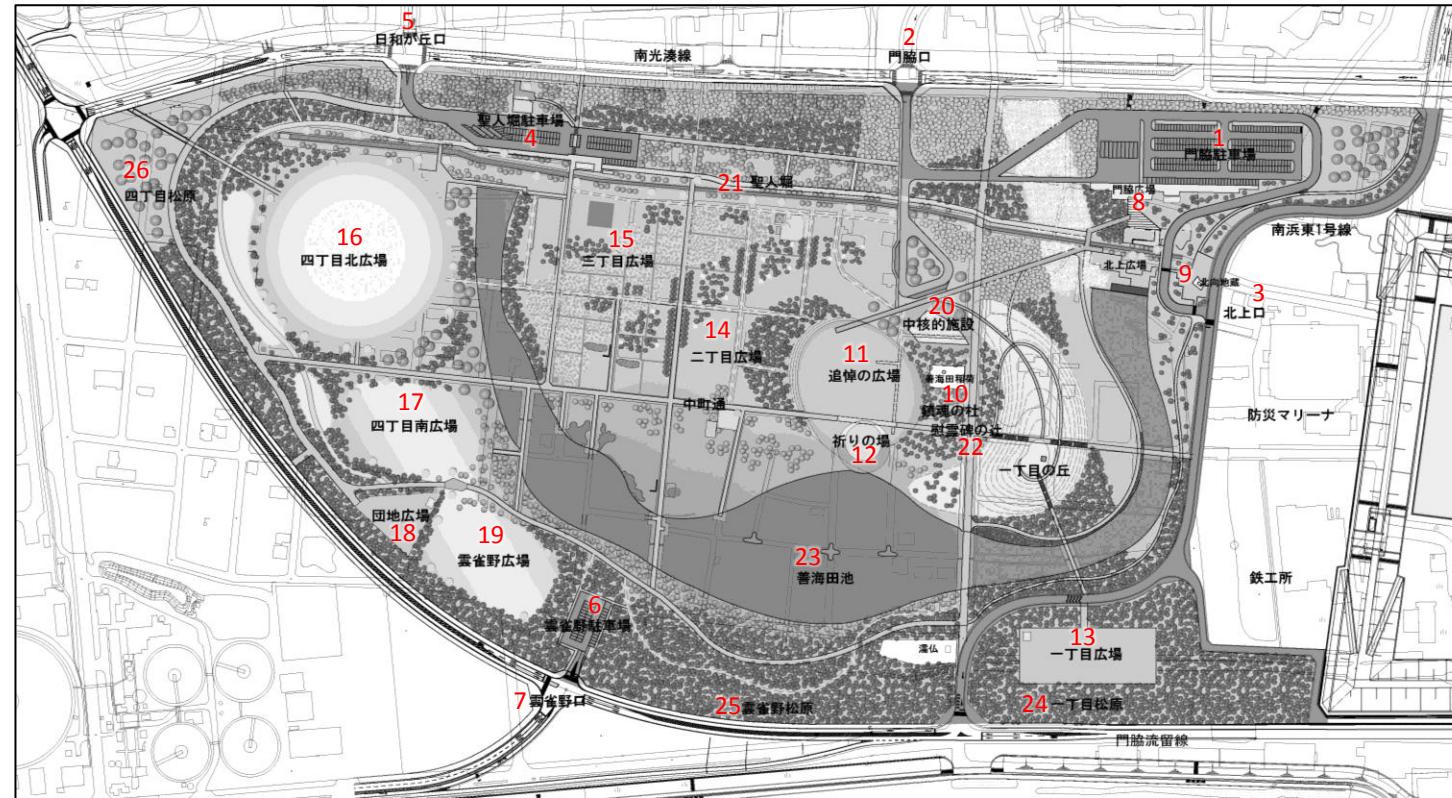
※施設名称は仮称であり正式名称ではありません

3. イメージパース



※施設名称は仮称であり正式名称ではありません

4. 施設仮名称の設定

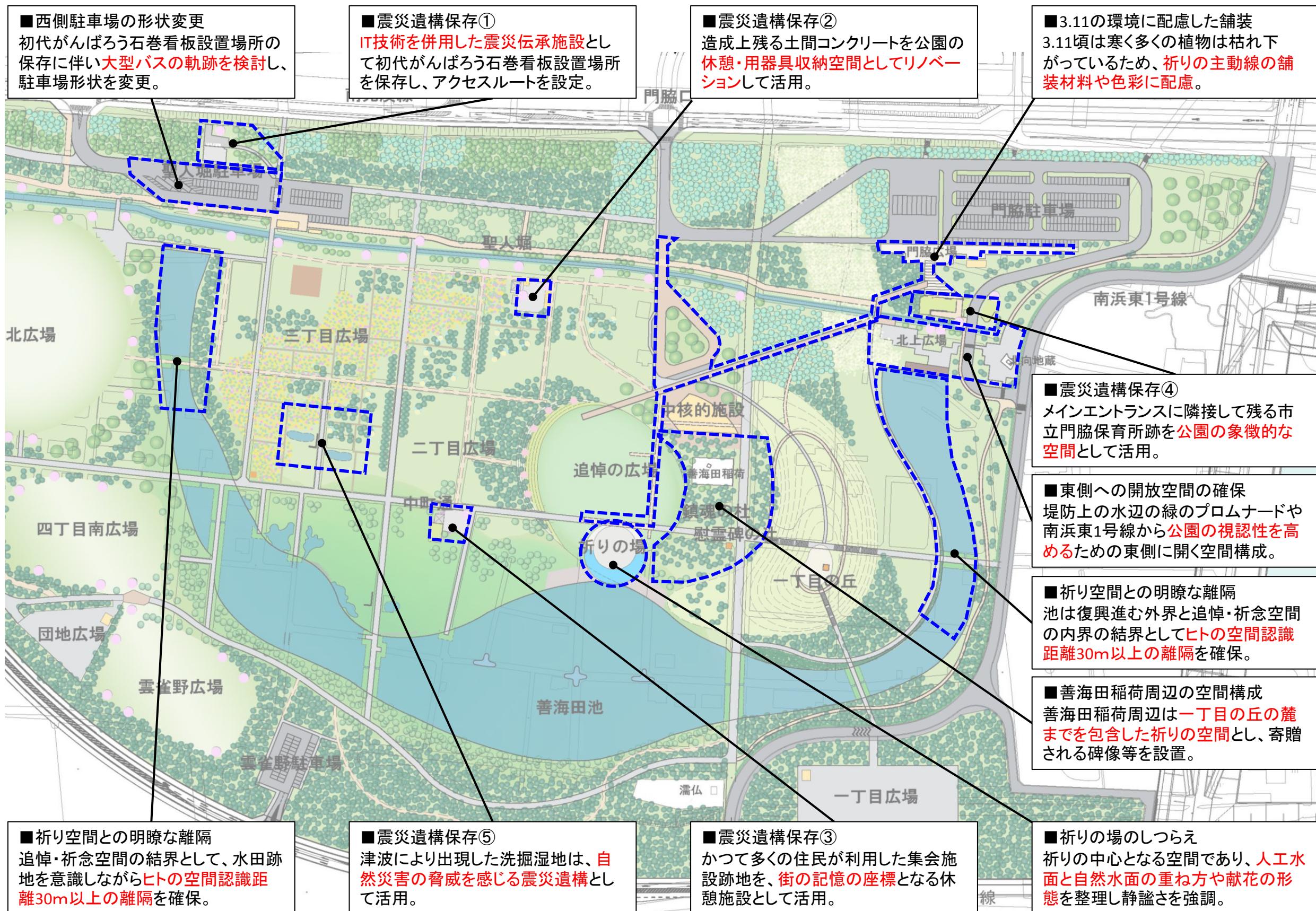


1	門脇駐車場 (かどのわきちゅうしゃじょう)	旧門脇町四丁目に位置する公園内で最も広い駐車場
2	門脇口 (かどのわきぐち)	新門脇町に整備された道路とつながる公園のメイン出入口
3	北上口 (きたかみぐち)	旧北上川側から門脇駐車場に至る公園東側の出入口
4	聖人堀駐車場 (しょうにんぼりちゅうしゃじょう)	聖人堀沿いに整備される公園西側の駐車場
5	日和が丘口 (ひよりがおかち)	日和山への登はん道路につながる公園西側の出入口
6	雲雀野駐車場 (ひばりのちゅうしゃじょう)	かつての雲雀野公園に位置する公園南側の駐車場
7	雲雀野口 (ひばりのぐち)	旧雲雀野一丁目に開かれた公園南側の出入口
8	門脇広場 (かどのわきひろば)	門脇駐車場に付帯する公園入口のメイン広場
9	北上広場 (きたかみひろば)	かわまちづくりや離島航路、防災マリーナとの連携を深める東側の旧北上川に向けて開く広場
10	鎮魂の杜 (ちんこんのもり)	国・県・市に寄贈される追悼・鎮魂に係る碑像等を設置する疎林
11	追悼の広場 (ついでうのひろば)	一丁目の丘と造型マウンドに囲われた3,000人規模の追悼・祈念式典の開催が可能な芝生広場
12	祈りの場 (いのりのば)	犠牲者を思い花を手向け祈りを捧げる場
13	一丁目広場 (いっちょうめひろば)	旧南浜町一丁目に位置する公園管理用バックヤードおよび市民活動広場

14	二丁目広場 (にちょうめひろば)	旧門脇町二丁目に位置し、公園の成熟とともに多様な企画を実践する広場
15	三丁目広場 (さんちょうめひろば)	旧門脇町三丁目に位置し、震災直後から行われている市民活動の拠点となる広場
16	四丁目北広場 (よんちょうめきたひろば)	旧南浜四丁目の北側に位置し、市民の多様なニーズを受け止めて軽スポーツや屋外活動を行う広場
17	四丁目南広場 (よんちょうめみなみひろば)	旧南浜四丁目の南側に位置し、市民の多様なニーズを受け止めて軽スポーツや体験学習等を行う広場
18	団地広場 (だんちひろば)	かつての市営住宅群が立ち並んでいた場所に位置する市民活動広場
19	雲雀野広場 (ひばりのひろば)	旧雲雀野町一丁目にかかる場所に位置し、民の多様なニーズを受け止めて軽スポーツや体験学習等を行う広場
20	中核的施設 (ちゅうかくてきしせつ)	来訪者の拠り所となる公園の主要建築施設
21	聖人堀 (しょうにんぼり)	江戸時代から存在する排水路で公園整備を契機に開渠化
22	慰霊碑の辻 (いれいひのつじ)	かつての中町通と濡仏線の交差点で、周辺に碑像を設置する鎮魂の杜が広がる
23	善海田池 (ぜんかいだいけ)	かつて水田が存在した低湿地帯を掘り下げた、この地の特徴を表す水面であり、大雨時の流出抑制機能も果たす
24	一丁目松原 (いっちょうめまつばら)	旧南浜町一丁目に再生する松原
25	雲雀野松原 (ひばりのまつばら)	旧雲雀野町一丁目に再生する松原
26	四丁目松原 (よんちょうめまつばら)	旧南浜町四丁目に再生する松原

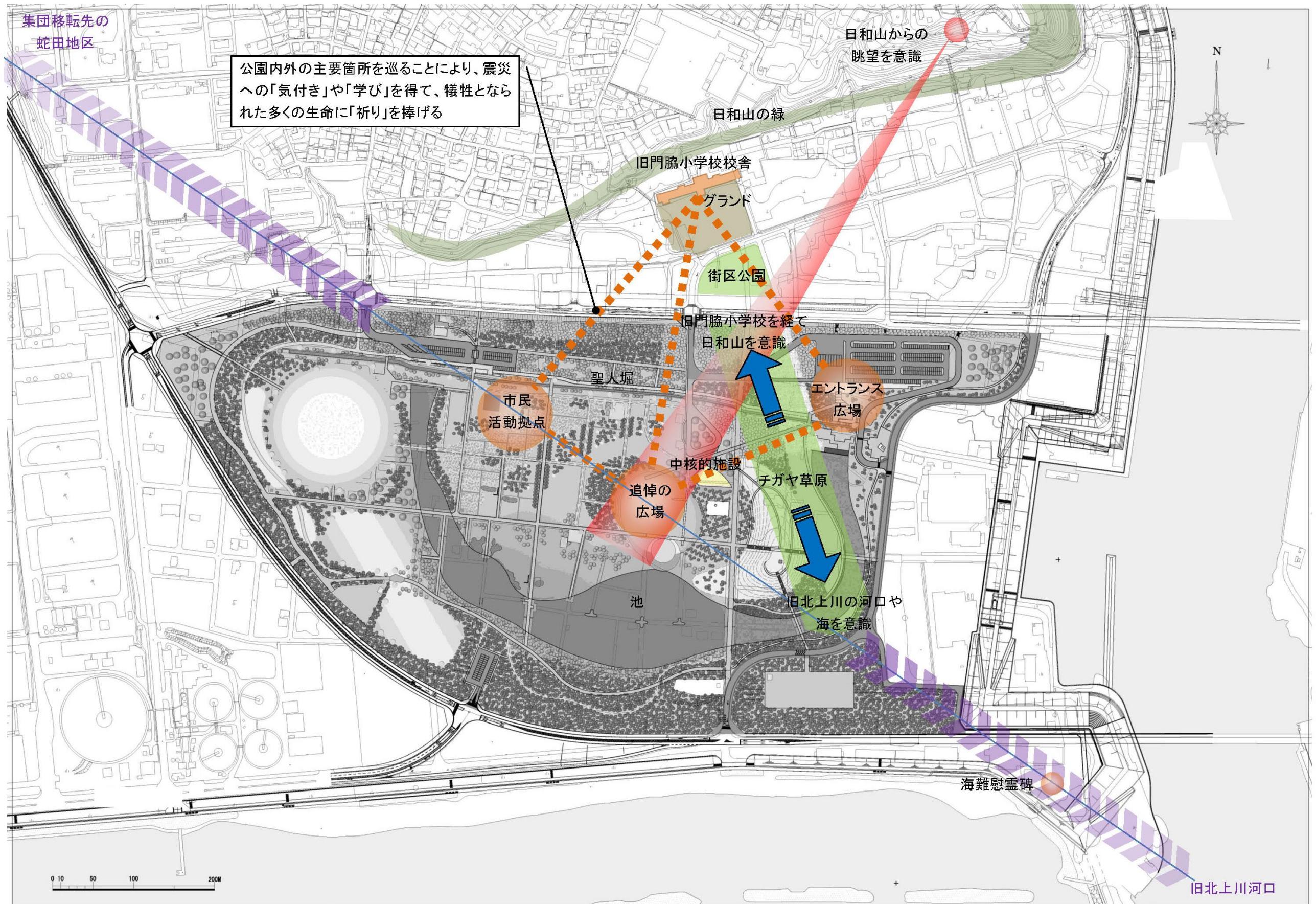
※施設名称は仮称であり正式名称ではありません

5. 検討のポイント



※施設名称は仮称であり正式名称ではありません

6. 旧門脇小学校や日和山との関係性等の整理



7. 日和山からの眺望性の検証

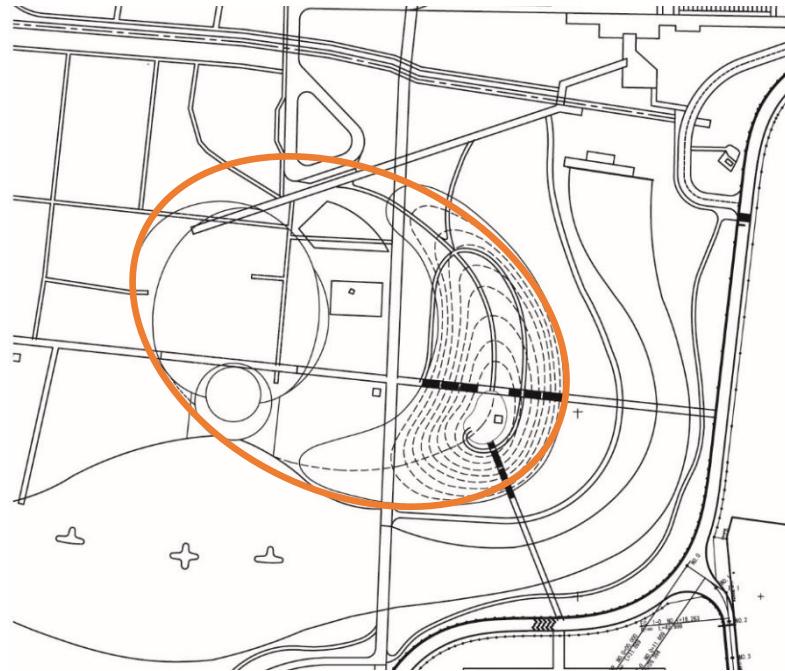
■ 日和山からの眺望と祈念公園の空間デザイン

- 震災前より石巻への来訪者の多くは日和山に足を運び、眼下を見下ろす視点場となっている。
- このため、祈念公園の中心的空間となる追悼の広場や祈りの場が、中核的施設越しに認識できる配置や高さに留意した。



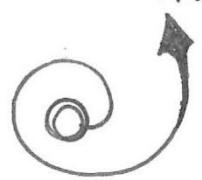
日和山からの公園眺望イメージ

8. 追悼の広場の空間デザイン



祈りの空間は一丁目の丘と造形マウンドに抱かれた静謐な空間として緩やかな曲線による楕円線形で円環形状とする、式典時に約3,000名を収容する規模として面積約8,000m²を確保する

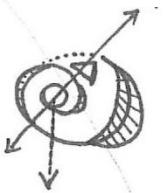
祈りの空間に配置する中核的施設は、取り囲む一丁目の丘ならびに造形マウンドと祈りの場をつなぎとめる役割を担う建築と位置づける



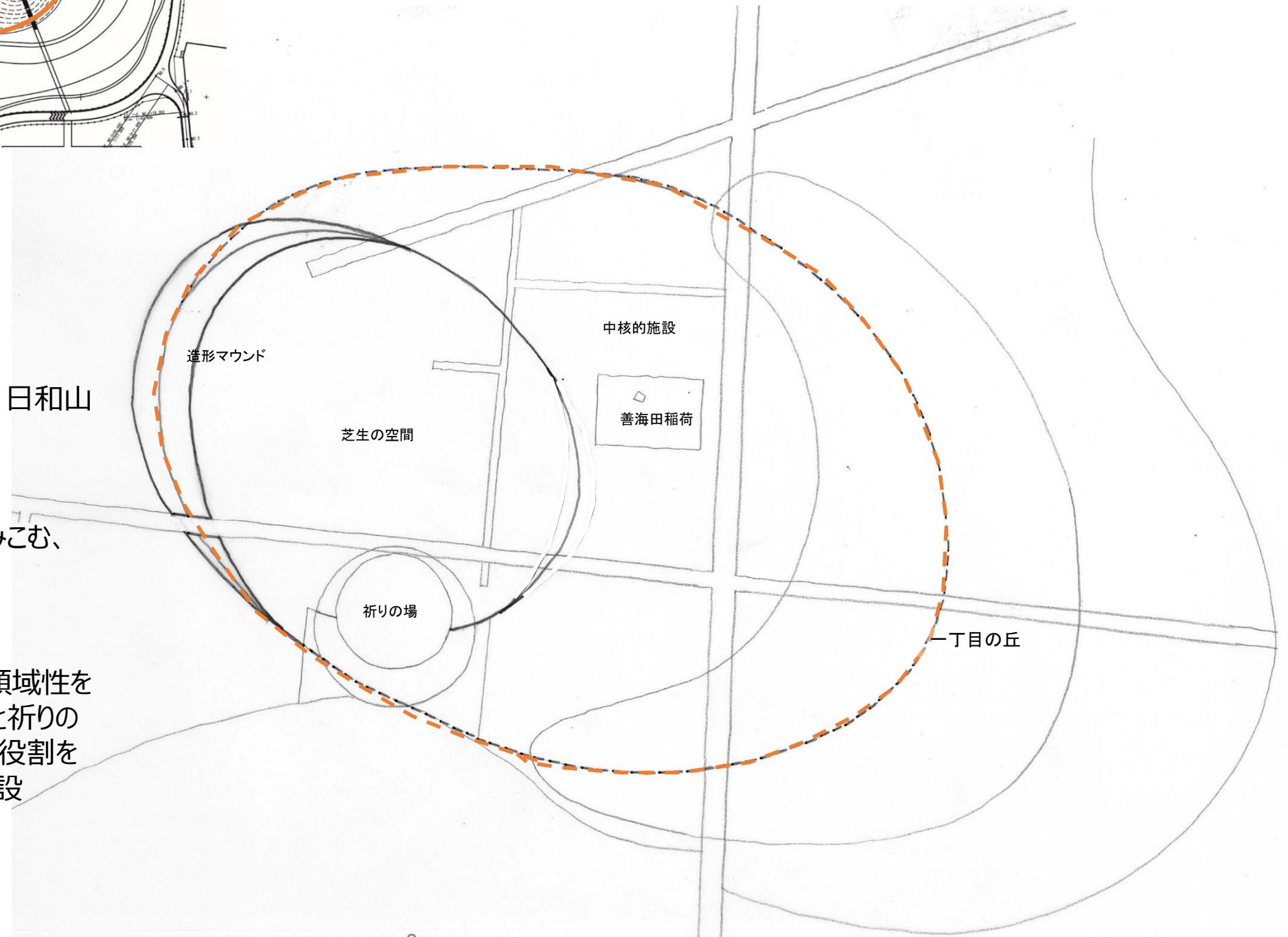
祈りの場から、日和山へ繋がる



祈りの場を包みこむ、柔らかな空間

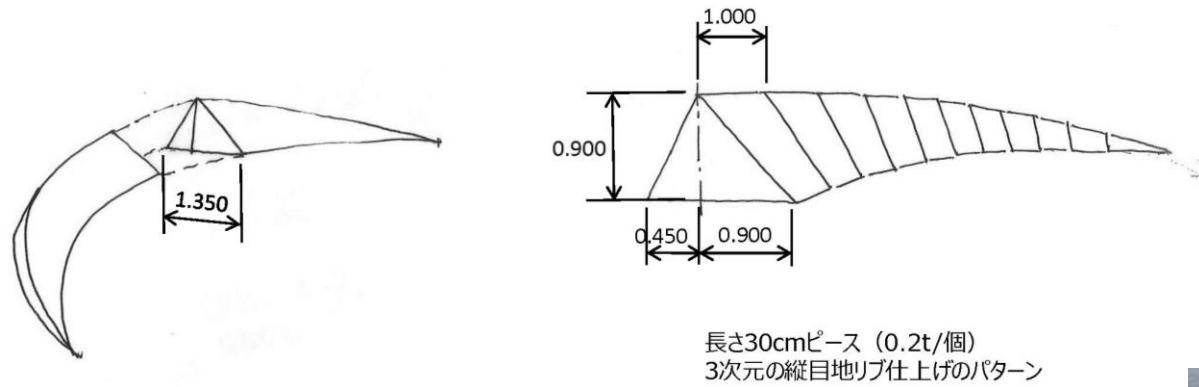


祈りの空間の領域性を創り出す法面と祈りの場を繋ぎとめる役割を担う中核的施設

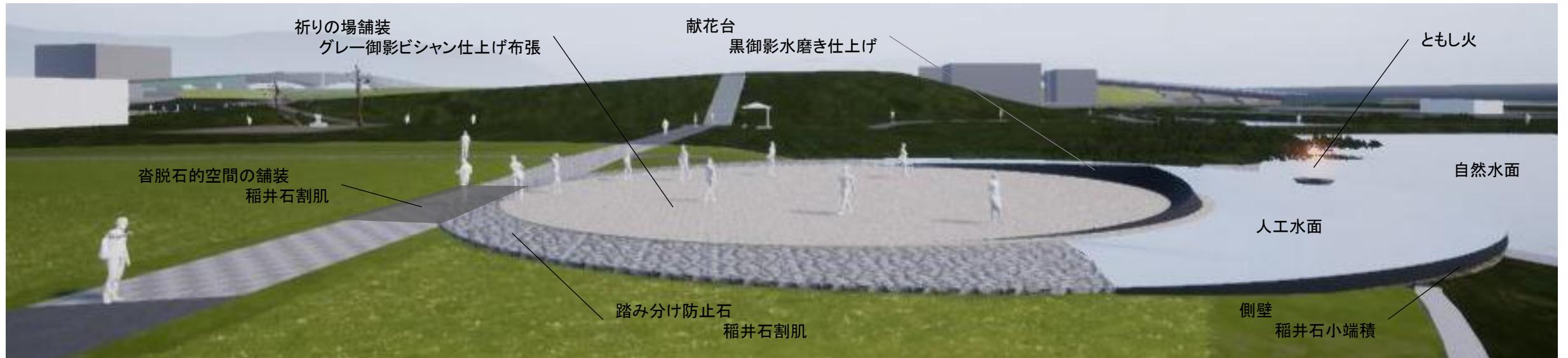
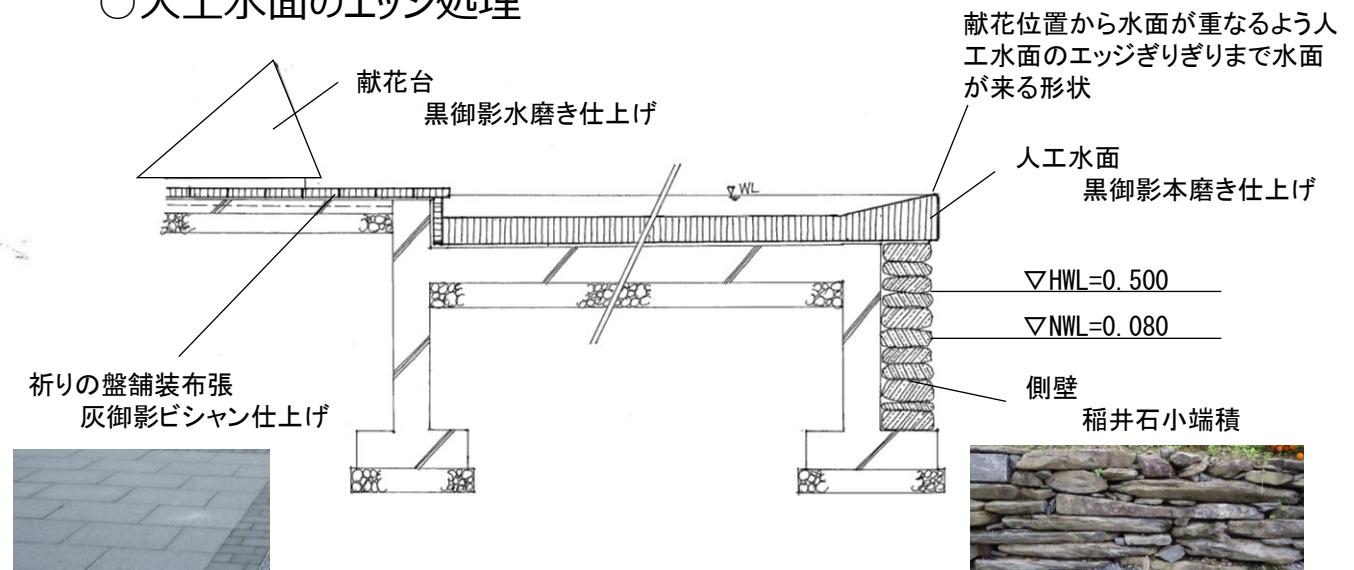


9. 祈りの場の空間デザイン (1)

○二日月形状の献花台モジュール



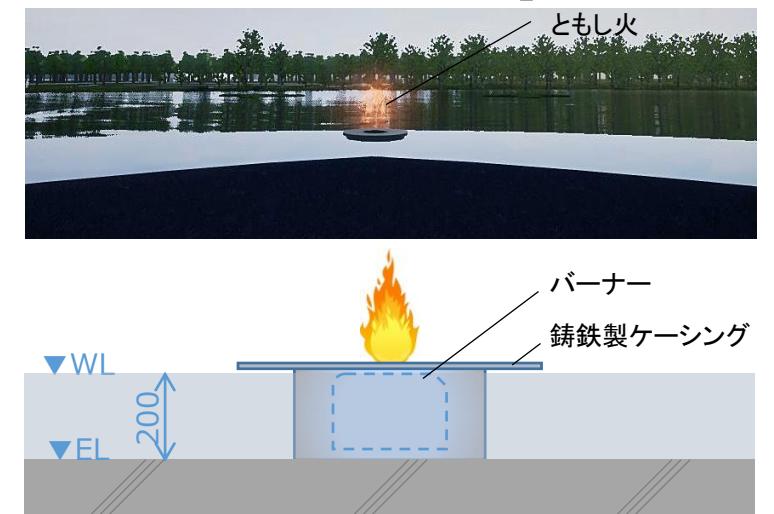
○人工水面のエッジ処理



○祈りの場の緊張感を高める沓脱石的空間



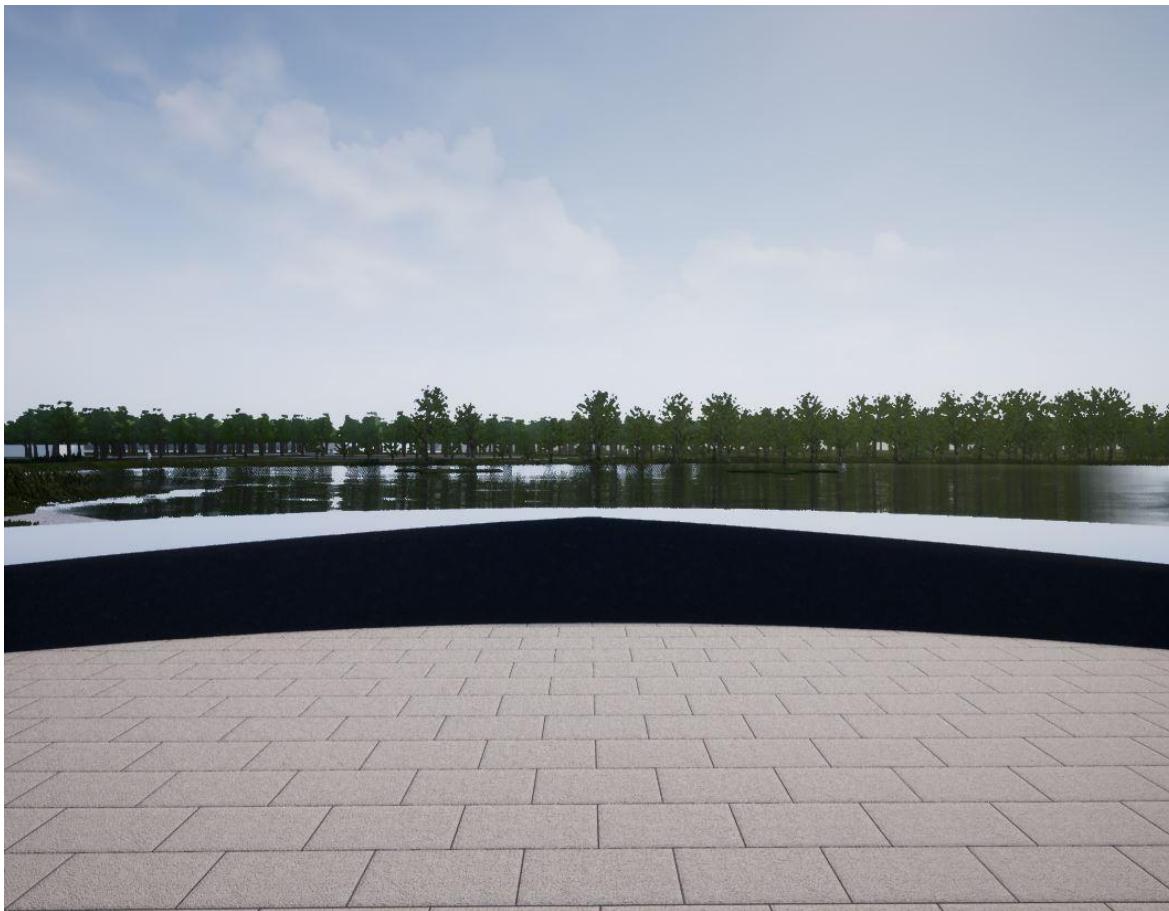
○祈りの場の規範を示す「ともし火」



9. 祈りの場の空間デザイン（2）

○ともし火の意義

人工水面の中心に、特定の宗教性のない普遍的な祈りの対象とすべく、**犠牲者への追悼の思いとこれからの復興の意志の象徴**として燃える「ともし火」の設置を検討した。



人工水面に「ともし火」が無い場合



人工水面に「ともし火」を設置した場合

10. 慰霊碑の辺の空間デザイン

慰霊碑の辺

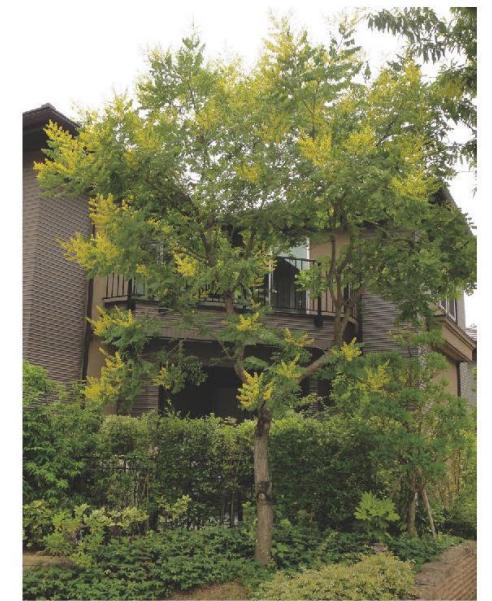


■ 慰霊碑の辺の役割と空間構成

- 復興祈念公園の整備に伴い、国・県・市へ碑像等の寄贈が想定される。
- 復興祈念公園では、追悼の広場、祈りの場と一丁目の丘の麓に囲まれた範囲を祈りの空間と位置付けている。
- この祈りの空間は、メインエントランスから中核的施設を経て追悼の広場を通り祈りの場に至る祈念公園の主たる動線となる。
- 主たる動線は、かつての中町通や濡仏線など、人々の生活に密着していた生活道路で構成される。
- このため、かつての中町通や濡仏線を巡礼の径としてたとえ、この動線により碑像を巡ることができるよう空間を整える。
- 碑像を巡る空間は、碑像同士が干渉しない離隔を持ち、かつ、それぞれの碑像の存在が明確に認識できるよう、植栽で囲われた空間とする。
- 植栽は基本的にクロマツで構成し、追悼の広場から一丁目の丘に包まれた空間が認識できるよう枝下空間が抜けるよう配慮する。
- 善海田稲荷の周辺には、地元緑化活動団体が石巻で採取した種子から育成しているウスギモクゲンジを数本植栽し、神社の風景を演出する。



クロマツ



モクゲンジ